

『ゴットフリート・ワグネル没後 125 年記念講演会のご案内』

この度、本学と OAG（公益社団法人 OAG・ドイツ東洋文化研究協会）の共催で標記講演会を開催します。ゴットフリート・ワグネルは本学の前身である東京職工学校の創立に関わり、本学草創期の教育・研究に貢献しました。更にワグネルは、シーボルト兄弟と力を合わせて明治日本を国際舞台へと導きました。そのきっかけとなったのがウィーン万博（1873 年）で、ワグネルが日本側の出品指導にあたりました。この成功によって、日本ブーム（ジャポニズム）が巻き起こったほどです。

共催者の OAG は、1873 年（明治 6 年）に在日ドイツ人の集まりを母体として東京で設立された団体であり、日本を研究し、ドイツ語圏の国々に日本を紹介することを主要な目的としています。日本の近代化に大きく貢献したシーボルト父子や本学の創設に関わったゴットフリート・ワグネル等の業績を研究し、定期的に講演会を開いてきています。

今年はワグネルの没後 125 年にあたります。そのような節目の年の命日（11 月 8 日）に、ワグネル研究の第一人者である本学の道家達将特命教授・名誉教授を迎えて記念講演会を開く運びとなりました。ワグネルの顕彰と新しい交流の輪が広がる機会になることを願いつつ、多数の皆さんのご来場をお待ちしています。

演題：「ゴットフリート・ワグネルの日本における貢献」

—日本の陶芸を愛し、近代化・工業化に尽くした Dr. ワグネル—

講師：道家 達将（東京工業大学 特命教授・名誉教授）

「ドクター・ゴットフリート・ワグネル（Dr. Gottfried Wagener、1831–1892）は、ドイツ人で優れた科学者・技術者であり、また陶芸家であって、1868（明治元）年、37 歳のとき日本に来て、日本の科学、技術、芸術とくに陶芸の近代的な発展に大きな貢献をし、日本で亡くなった人である。……その内容は、従来の経験に基づく日本の陶芸・製陶を、先端的な西洋科学・技術を取り入れることによって質・量ともに飛躍的に高め、より優れた芸術作品、またすぐれた工業製品を生む基礎を築いたことである」（講演者の言葉から）。

と き： 2017 年 11 月 8 日（水）18:30–20:00

ところ： OAG・ドイツ文化会館 1 階 ホール、港区赤坂 7-5-56（Tel. 3582-7743）

（地下鉄青山一丁目駅、出口 4 南、徒歩 8 分）

かいひ： 無料（講演後 懇親会を開催いたします）
申し込みは当日会場にて受付

主催： 公益社団法人 OAG ドイツ東洋文化研究協会
国立大学法人 東京工業大学

協力： 一般社団法人 蔵前工業会
公益財団法人 日独協会

在日ドイツ商工会議所

後援： ドイツ連邦共和国大使館



アクセス： 青山一丁目駅（地下鉄銀座線、地下鉄半蔵門線、都営地下鉄大江戸線）出口 4 番を出て青山通りを赤坂見附方面に進み、草月会館と高橋是清記念公園の間の道を右折して、100m。